

やっぱもっさ新聞は三原を元気にする多くの企業様に支えられ発行しております。

(有)I WILL土居写場
（株）赤石硝子建材
赤谷木材株式会社
有限会社安芸緑化機材
公認会計士浅田勝彦事務所
(株)アトラック
池田電工
岩西自動車
有限会社上田製版印刷所
株式会社ウツミ
宇野事務所
株式会社エヌワイティグループ
株式会社大石製作所
大下建設株式会社
大東印刷株式会社
オートドリーム三原
株式会社小川電気工事
奥田自動車
有限会社お茶の平野園
小野税理士事務所
有限会社笠下工務店
有限会社片山自動車工業
勝原不動産株式会社
株式会社勝村商店
勝村木材株式会社
株式会社ガルバ興業三原工場
寿司・割烹 かわ蝶
有限会社河本商店
株式会社関西通商
有限会社完山商店
共立電機産業株式会社
有限会社共和設計
共和不動産株式会社
株式会社桐島電気サービス
熊野開発株式会社
株式会社倉橋匠栄堂

警備保障イーグル88
医療法人仁康会小泉病院
広愛産業株式会社
株式会社コグマヤ
極楽寺
小松木工株式会社
株式会社サービスセンター
株式会社阪井養魚場
株式会社坂元鉄工
株式会社笹井産業
株式会社SunEight
三陽環境管理株式会社
山陽建設株式会社
有限会社シー・イー・サプライ
CBテクノロジー株式会社
しまなみ信用金庫
株式会社住創
農事組合法人風舎
順勝寺
株式会社正田文華堂
有限会社新晃
藤井建設株式会社
株式会社スミダ
株式会社セイム
セブンイレブン 世羅町店
惣田司法書士事務所
ダイヤモンドゴルフ練習場
タカシンホーム
瀧宮神社
有限会社タクトコーポレーション
竹本自動車
田中運輸株式会社
有限会社多森薬局
有限会社中央地所
三原補聴器センター
くし焼き 狐
有限会社寺迫組
有限会社東亜不動産

富野機工株式会社三原営業所
株式会社中野産業
中間醸造株式会社
株式会社コグマヤ
なぎさ医院内科・皮膚科
株式会社ナンバ洋服店
有限会社西岡設備
にった文具店
株式会社阪井養魚場
株式会社坂元鉄工
株式会社八天堂
株式会社原アルミ建材
光自動車ガラス専門店
桧山泰三税理士事務所
平田歯科医院
有限会社広興
広島電気工事株式会社
ファミリーレストラン太陽樹高須店
農事組合法人風舎
株式会社富久屋
(株)藤井
藤井建設株式会社
藤井稔久税理士事務所
富士金属工業株式会社
株式会社BRIGHT
フジグラン三原
株式会社ブリッジ
株式会社古川製作所
株式会社古林電機
フルモト建機株式会社
ヘアーサロンにしら
有限会社本田石材工業
株式会社まじま製麺
益谷建設株式会社
松尾社会保険労務士事務所
丸源ラーメン三原店
Ideal Global Investment.Ltd

株式会社丸善商会
株式会社みどり商会
有限会社みどり書店
瀬戸内開発株式会社
三原郷心会
三原共同生コン株式会社
株式会社三原国際ホテル
有限会社三原松操
三原末広簡易郵便局
三原タイヤ株式会社
有限会社三原スバル販売
M-CAT三原テレビ
三原電機有限会社
株式会社三原美装社
三好印刷株式会社
有限会社村上鉄工所
盛影塗装株式会社
もりきんデザイン
有限会社モリタ美研
上葉
献銘
やっさ
饅頭
三原の味です。名物です
やっさ饅頭本舗
保道建設株式会社
株式会社やっさ石油
やまさ建設株式会社
山田記念病院
株式会社ヤマナ
山根法律会計事務所
寝・生活館よしなが
由水酒販株式会社
夜船司法書士事務所
下町の居酒屋六文錢
株式会社若山組
渡辺土地建物有限会社



発行元 一般社団法人 三原青年会議所
〒723-0052
広島県三原市皆実4丁目8番1号
三原商工会議所内2階
TEL:0848-63-3515
FAX:0848-62-1141
mail:info@mihara-jc.com

編 集 ミハラブースト委員会

特別支援学校 小泉さといもプロジェクト

葉田のごぼう・大和のレンコ
木原のわけぎ・小泉の里芋、
いくつもの特産の野菜が三原には
あります。その中で広島県立三原
特別支援学校高等部の2、3年生
が小泉の農家の方と協働し、里芋
が小泉の農家の方と協働し、里芋
あります。現在、三原特別支援学校には農
業・食品・接客サービス・さをり
織り・木工・メンテナンス・クラ
フトという7つのグループがあり、
その中の農業グループが地元の里芋農家さん
に教えを請いながら、2年前より里芋の生産に取り組
んでいるとのことです。担当の川野先生に話を伺いま
した。Q..さといもプロジェクト誕生のきっかけは教えてください。
A..さといもプロジェクト誕生のきっかけは教えてください。

川野先生..「テレビ番組で自然にこだわった農法されている小泉の里芋農家の岡田さんが紹介されていました。そのを見て、こちらからアプリケーションを開きました。お会いしてお話を伺つてみると、里芋農家が激減し現在6軒(2年前当時)しかなくなりくなるかもしれません」との事で今回は里芋農家の7軒目にになりました。子供たちと取り組みを始めました。地域協働というのを本校が謳つた。地域と一緒に何かを作りました。出しているこういう中で、小泉町のふるさとコラボさせて貰つて、週2日ある作業学習の時間を充てて、お手伝いさせてもらうことから

川野先生..「小泉の里芋はブランド化されているものです。本校で育てたものが将来的にブランドの一翼を担えばという壮大な思いがあります。それと今、農福連携といつて農業が連携する取り組みが全国的に広がっています。例えば近くでは三原市でもそういうことを進めています。農業中心の世羅町が町を挙げて積極的に進めています。たちは現在せっかく大きな農場で農業体験を進めているので、学校で学んでいることをそのまま就業に繋げていくことが出来ます。すると後継者不足で悩んでいる農家が就業先になくなつていいくのではないかと思いま

川野先生..「農業グループが食品グループに特産の里芋を生かしたもので何かできないかと相談をして、それを食品グループが地元小泉の古民家がラサといもブラウニーを発案しました。カフェココロさんは他にもコラボしており、特産ではないのですが、かぼちゃチーズケーキなども作っています。」

タートしました。そして、1年前に種芋を分けて頂いて。それを本校の敷地内の農場の一角に里芋を植えた。」



QRコードを読みこんで
みはらJCのかつどうを
チェックしてみよう!



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

と思い、このプロジェクトが始まりました。昨年種芋贈呈式を行いました。

ところから始めました。生徒さんそれに個性があつて、得手不得手もあ



小泉サトイモプロジェクトの取材で対応して
いただいた、峯本校長（左）、川野先生（右）

農家の岡田さんにも話を伺いました。

Q … プロジェクトについて教えてください。

岡田さん…2年前は組合が6件ありました。組合長の私と若手農家、残りの4件は80代の農家さんたちで小泉の里芋を守ってきました。ですが、高齢化により作り手がいなくなり、昨年組合もなくなってしまいました。これは確実に里芋作りが出来なくなる時が来ると感じていました。特産はやろうと思つてもすぐには成り立たない、だけど、ずっとここで育つてきた種と作り方を残すという1つの方法として子供たちに託す事を是非やってもらいたい

それを受け継いでもらうのは次に繋がるのではないか。その次は農業部の生徒さんだけではなく、飲食の生徒さん達ですが、さともうブラウニーを作つてもらつて。最初はすごくびっくりしたのですが、さともう食感がすごく生きているものが出来上がつていた。そういう形で広がつていって、その中で特産がまた復活して残ればいいなと思いました。

だからこそ未来へ繋げてほしい

繋げることは難しい
だからこそ未来へ繋げてほしい



岡田さん 農業の現状や今後について貴重なお話を伺えました。

やつていこうと思いますが、特別支援学校の生徒さんと作っていく中で、子供たちの職業の選択肢の一つとしても広がつていけばと思っています。

100株植えて今度はその種芋を先輩から後輩へ引き継ぎます。里芋の種は菜種や大豆と違い、毎年更新しないといけません。そういう形で種芋も次の学年、次の学年へと受け継いでもらって、そうすればもし私の所で種がなくなつても特別支援学校さんに種は残るので絶えることはないのでないかと思っています。

Q　生徒さんが実際に従事している姿を見た時の思いはどうでしたか。



サトイモプロジェクトに向けて、育て方に
ついて、岡田さんから説明を受けています。



未来に繋げる種芋、この種芋がある限り、三原の特産の里芋はなくなりません。

岡田さん…食べることはどうことはすべての人に欠かせないことなので、それを地域の中で出来て、そうすると顔が見える関係なので安心安全にも繋がります。また、特産ということで無くなってしまうと復活させるには途方もない労力があるので、そういう意味では種と作り方だけでもちゃんと次に繋げていけたらなど。もともとは40軒くらいあった組合が2年前には6軒になりました、今では組合自体がなくなつてしまつたので、大変な時ではあります。私も生きている以上は受け継いで

岡田さん等地域の人々と協働し実際
に里芋作りに携わった生徒達からは、
『畝の作り方、植え方や里芋の付き方
などを良く知ることが出来た』『作る
人の大変さが分かった』などの声が聞
かれました。小泉の里芋は伝統野菜ら
しい厳しい品質基準があり、ゆくゆく
はその基準に合格し市場に流通させる
ことを目指し、今年も引き続き生徒た
ちによつて里芋作りが行われます。近
い将来、私達も生徒たちの作つた里芋
を購入し、それを使つた料理を作つた
り食べたりすることができるのではないか

小泉町ではお種戻し（おたねもどし）という、種芋を頂き、育つたら種芋を頂いた方に戻すというしきたりがあり、それには万一収穫できなかつた時に農家同士で助け合うという意味合いもあるそうです。

特別支援学校の生徒たちが小泉の里芋を育て、また下の学年に絶やさず引き継いでいく。そして、それを寺焼

いでしょうか。その為にも小泉町のあ
る三原に暮らす私達も、里芋をはぐく
む土や水などの自然を守れるよう、サ
ステイナブル（持続可能）な生活を心
がけていければと思います。

小泉町ではお種戻し（おたねもど
し）という、種芋を頂き、育つたら種
芋を頂いた方に戻すというしきたりが
あり、それには万一収穫できなかつた
時に農家同士で助け合うという意味合
いもあるそうです。

特別支援学校の生徒たちが小泉の里
芋を育て、また下の学年に絶やさず引
き継いでいく。そして、それを持続し
ていくことで、地域の特産を守つてい
くことが出来る。その行為自体が地域
へのお種戻しと言えるのかもしれません



里芋の収穫。生徒からは作物を育てる大変さと収穫した時の達成感など、いい経験ができたそうです。